

■宮原二郎 海軍軍人。宮原式水管缶の発明者。

みやはらじろう

五ヶ国条約・1858＝ 宮原成叔の長男として生まれ、幕臣宮原木石の養子となる。

桜田門外変・1860＝ 2歳：

大政奉還・・1867＝ 9歳：

明治維新・・1868＝10歳：

静岡学問所を経て、

学問のすすめ1872＝14歳： 海軍兵学寮予科に入学。

明治6年政変 1873＝15歳：

三つの反乱・1876＝18歳：

その後、イギリスに留学し、グリニッチ海軍大学校3年課程で学ぶ。

明治14年政変1881＝23歳：

岩倉具視没・1883＝25歳：中機関士任官。主船局機関課、

内閣発足・・1885＝27歳：

艦政局機関課長と、蒸気機関のプロになり、

イギリス駐在後、

初の対等条約1888＝30歳：

\*海軍軍人のまま、東京帝国大学工科大学教授を兼任し、

帝国憲法発布1889＝31歳：

横須賀鎮守府造船部計画科長、

大本教・・・1892＝34歳：

製鋼事業調査委員を任命される。

郡司千島探検1893＝35歳：

造船造兵監督官として、イギリスに出張するなど、通算10数年に及ぶイギリスでの経験を活かし、

日清戦争始・1894＝36歳：

この頃、蒸気機関の中核である汽灌を水管式に改良、

白馬会・・・1896＝38歳：

造船大監に進級。海軍省軍務局造船課課僚などを経て、

八幡製鉄始・1897＝39歳：

\*特許が認められて、蒸気機関の利用が一気に高まる契機となる。工科大学講師として船用機関学講座。

宮原機械研究所を設立して、自らも製造販売に携わるが、企業家としては失敗、

Bushidou・・1899＝41歳：

工学博士号を取得。造船協会で講演「水管式汽灌」。

ピアノ国産化・1900＝42歳：

機関総監に進級。艦政本部第4部長を勤め、

田中正造直訴1901＝43歳：

\*宮原式水管式汽灌が海軍で採用され、以降、大正初年までの新造軍艦全てで装備される。

日比谷公園・1903＝45歳：

日露戦争始・1904＝46歳：

水管式汽灌発明の功績により、旭日重光章。

日露戦争終・1905＝47歳：

満鉄発足・・1906＝48歳：

海軍機関中將となり、

韓国反日暴動1907＝49歳：

男爵の爵位を授爵し華族となる。

伊藤博文暗殺1909＝51歳： \*予備役に編入された。

のち、貴族院議員となる。

明治天皇没・1912＝54歳：

大正政変・・1913＝55歳：

大貫龍城の協力を得て、「内火式機関計画」を著す。

晩年を、自ら設計した高い望楼を持つ家で楽しみながら、

本格政党内閣1918＝60歳： 没した。